

2026年度

入学試験

作文(かがやき)

(全 2 ページ)

注意事項

1. 受験番号、氏名および解答は、定められたところにたて書きで記入しなさい。
2. 「、」や「。」などの記号は1字に数えます。

2025年10月21日、^{たかいちきさなえ}高市早苗氏が第104代内閣総理大臣に就任し、日本初の女性首相が誕生しました。世界には、国家や様々な分野で活躍している女性リーダーがいます。以下の資料を見て、あとの問いに答えなさい。



【資料】「世界で活躍する女性リーダーを見て、考えよう！」

女性の国家 リーダー数 (2025年11月時点)	$\frac{25}{193}$	G7 (注1) の中で 女性の国家リーダー	$\frac{2}{7}$	アジアの中で女性 の国家リーダー数	$\frac{3}{49}$
--------------------------------	------------------	--------------------------	---------------	----------------------	----------------

① シリマヴォ・バンダラナイケ (元スリランカ首相)

「世界初の女性首相」が、元スリランカ首相のバンダラナイケ氏です。1960年に当時のセイロン（現スリランカ）で首相に就任しました。もともとは首相である夫が暗殺された後に政党のリーダーとして指名されて政治世界に飛びこみました。任期中は、教育機関や輸送業などの国有化政策を進め、農村の女性支援や社会的平等の実現をめざしました。また、1972年にはスリランカ共和国として位置づける新憲法を制定し、国づくりの方向性を大きく変えました。



② エレン・ジョンソン・サーリーフ (元リベリア大統領)

アフリカ大陸において、初めて選挙で選ばれた女性国家元首がサーリーフ氏です。戦争や紛争^{ぶんそう}で荒れはてた国を立て直すなかで、教育などの公共政策、女性起業家支援を強く打ち出して立て直しに成功しました。女性の政治参加と平和をつくることに貢献したとして、2011年にノーベル平和賞を受賞しています。



③ サンナ・マリン（元フィンランド首相）

マリン氏は、34歳でフィンランド首相になり、当時の世界最年少の首相として注目を集めた人物です。労働者家庭の出身で、両親が同性パートナーという経験から、多様性と平等を大切にする政治を展開しました。育児休暇の男女平等化にも取り組み、2035年カーボンニュートラル（注2）目標などを推進しました。SNSを通じた率直なコミュニケーションで若者の共感を得て、とりわけZ世代（注3）から注目されるようになりました。



④ ジャシンダ・アーダーン（元ニュージーランド首相）

アーダーン氏は、2017年に37歳でニュージーランド史上最年少、また同国3人目の女性首相になりました。テロ事件やコロナ禍対策では、被害者や国民に寄り添う誠実な発信を続け、強さと優しさを両立したリーダー像を示しました。育児と政治を両立し「子育て中の首相」としてもメディアで話題になりました。就任当初から共感と対話を重んじる姿勢を示しており、「Be kind（優しくあれ）」という言葉を通じて新時代のリーダー像として人気を得ました。



（注1）G7… フランス、アメリカ合衆国、イギリス、ドイツ、日本、イタリア、カナダのこと。

（注2）カーボンニュートラル… 温室効果ガスの排出量と吸収量を差し引きゼロにすること。

（注3）Z世代… 1990年代半ばから2010年代序盤に生まれた若い世代のこと。

問1 世界では、現在、女性リーダーの活躍が求められる場面が増えています。なぜ世界で女性リーダーが増えることが大切だと思いますか。その理由としてあなたが考えることを、200字以内で述べなさい。

問2 資料にある四人の説明文を見て、あなたが興味をもった人物を一人選んでください。解答欄に選んだ人の①～④の番号を記入し、その人を選んだ理由と、あなたがその人から学んでみたいことを、300字以内で答えなさい。

以上

